

1. 演奏 小林範子オリジナル曲

2. ちいさい秋みつけた

作詞サトウハチロー・作曲中田喜直

- 一、誰かさんが 誰かさんが
誰かさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた
めかくし鬼さん 手のなる方へ
すましたお耳に かすかにしみた
よんでる口笛 もずの声
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた
- 二、誰かさんが 誰かさんが
誰かさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた
お部屋は北向き くもりのガラス
うつろな目の色 とかしたミルク
わずかなすきから 秋の風
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた
- 三、誰かさんが 誰かさんが
誰かさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた
むかしの むかしの 風見の鳥の
ぼやけたとさかに はぜの葉ひとつ
はぜの葉あかくて 入日色
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた

3. 月の沙漠 作詞加藤まさを・作曲佐々木すぐる

- 一、月の沙漠を はるばると
旅のらくだがゆきました
金と銀とのくらおいて
二つならんでゆきました
- 二、金のくらは銀のかめ
銀のくらは金のかめ
二つのかめは それぞれに
ひもでむすんでありました
- 三、先のくらは王子さま

あとのくらはお姫さま
乗った二人は おそろいの
白い上着を着てました

- 四、広い沙漠をひとすじに
二人はどこへゆくのでしょうか
おぼろにけふる月の夜を
対のらくだはとほとほと
砂丘をこえてゆきました
だまってこえて ゆきました

4. 荒城の月 作詞土井晩翠・作曲滝廉太郎

- 一、春高樓(こうろう)の花の宴(えん)
巡(めぐ)る盃(さかずき)かげさして
千代(ちよ)の松が枝(え)わけ出(い)でし
昔の光(ひかり)いまいずこ
- 二、秋陣営(じんえい)の霜(しも)の色
鳴(な)きゆく雁(かり)の数(かず)見(み)せて
植(う)える剣(つるぎ)に照(て)りそいし
昔の光(ひかり)いまいずこ
- 三、いま荒城(あらか)の夜半(よわ)の月
替(か)わらぬ光(ひかり)たがためぞ
垣(かき)に残(のこ)るはただ葛(かずら)
松(まつ)に歌(う)はただ嵐(あらし)
- 四、天上影(てんじやう)は替(か)らねど
栄(えい)枯(こ)は移(うつ)る世(よ)の姿(すがた)
写(うつ)さんとてか今(いま)もなお
嗚呼(ああ)荒城(あらか)の夜半(よわ)の月

5. 上を向いて歩こう 作詞永六輔・作曲中村八大

上を向いて歩こう
涙(なみだ)がこぼれないように
思い出(おもいで)す 春(はる)の日(ひ) 一人(ひとり)ぼっちの夜(よ)

上を向いて歩こう
にじんだ星(ほし)をかぞえて
思い出(おもいで)す 夏(なつ)の日(ひ) 一人(ひとり)ぼっちの夜(よ)

幸せ(しあわせ)は 雲(うみ)の上に
幸せ(しあわせ)は 空(そら)の上に

上を向いて歩こう
涙(なみだ)がこぼれないように
泣(な)きながら 歩(あ)く 一人(ひとり)ぼっちの夜(よ)

思い出す 秋の日 一人ぼっちの夜

悲しみは星の影に
悲しみは月の影に

上を向いて歩こう
涙がこぼれないように
泣きながら 歩く 一人ぼっちの夜

6. 見上げてごらん夜の星を

作詞永六輔・作曲いずみたく

見上げてごらん 夜の星を 小さな星の
小さな光が ささやかな幸せを歌ってる

見上げてごらん 夜の星を 僕らのように
名もない星が ささやかな幸せを祈ってる

手をつなごう僕と 追いかけてよう夢を
二人なら苦しくなんかないさ

見上げてごらん 夜の星を 小さな星の
小さな光が ささやかな幸せを 歌ってる

見上げてごらん 夜の星を 僕らのように
名もない星が ささやかな幸せを祈ってる
ささやかな幸せを祈ってる

7. 学生時代 作詞・作曲平岡精二

一、つたの絡まるチャペルで 祈りを捧げた日
夢多かりしあの頃の 思い出をたどれば
懐しい友の顔が 一人一人うかぶ
重いカバンを抱えて 通ったあの道

秋の日の図書館の ノートとインクの匂い
枯葉の散る窓辺 学生時代

二、讃美歌を歌いながら 清い死を夢みた
何んの よそおいもせずに 口数も少なく
胸の中に秘めていた 恋への憧れは
いつもはかなく破れて 一人書いた日記
本棚に目をやれば あの頃読んだ小説
過ぎし日よ わたしの学生時代

三、ロウソクの灯に輝く 十字架を見つめて
白い指をくみながら うつむいていた友
その美しい横顔 姉のように慕い
いつまでもかわらぬと 願った幸せ

テニスコート キャンプファイヤー
懐しい日々は帰らず
すばらしいあの頃 学生時代
すばらしいあの頃 学生時代

川越の歌 (No.8~10)

8. よりみち八幡みんぶいなり~民部稲荷の歌

作詞寺島悦恩・作曲小林範子

民部稲荷(別名相撲稲荷)神社
御祭神 倉稲魂神(うがのみたまのかみ)
足腰健康の神様として川越八幡神社の
境内に祀られています。

一、虹の向こうの八王子 民部さまのお屋敷に
毎晩出かける 小坊主しんぼち

二、あんなとお寺があったかな
それでもおしょうさんはお礼に
ごちそういっぱいおもてなし
民部さまをおまねき

ご利益(りやく)いっぱい民部さま
ぼんしん山川越へ
はちまんえんまん きらりきらり
コンコンカップルご成婚

三、民部さまはごきげん
ひとつ相撲でもとろうかな
強かったあら勝った また勝った民部さま

四、いちようの下の民部さま
いちようの葉っぱもきらきら
大判小判もきらきら
花手水(ちょうず)には てまり花
ご利益(りやく)いっぱい民部さま
ぼんしん山川越へ
はちまんえんまん きらりきらり
コンコンカップルご成婚

9. 河童の伊勢まいり

作詞柿沼宏・作曲小林範子

川越市伊勢原町 「御伊勢塚公園」に河童伝説に
ちなんだ河童のモニュメントがあります。

一、カッパ カッパ カッパカッパ

カッパ カッパ カッパカパア

(三部輪唱 繰り返し)

おいらは小畔(こあぜ)の 小次郎河童

いたずら好きの 川の主

仲よしこよしの 三匹で

お伊勢まいりと しゃれこんだ

カッパ カッパ カッパカパア

(繰り返し)

二、カッパ カッパ カッパカパア

カッパ カッパ カッパカパア

(三部輪唱 繰り返し)

おいらは伊草の 袈裟坊(けさぼう)河童

しっかり者の 川の主

たにしのふたに 術(じゅつ)をかけ

小判にみせて ふるまった

カッパ カッパ カッパカパア

(繰り返し)

三、カッパ カッパ カッパカパア

カッパ カッパ カッパカパア

(三部輪唱 繰り返し)

おいらは小沼(こぬま)の かじ坊河童

ひょうきん者の 川の主

いんちきばれて 逃げかえり

二度と旅など 出なかった

カッパ カッパ カッパカパア

(繰り返し)

10. Mr. スイートポテト 作詞・作曲小林範子

一、Mr. スイートポテト ぼくはさつまいも

南の国 から やってきた

食べものの 王様

江戸の飢饉も 大活躍

安くてうまい ファーストフード

ベニアカ ベニはるか

シルクスウィート

みんな兄弟

Mr. スイートポテト いまは「トキモ」

栗よりうまい 13里

With huffing and Puffing

Please try one! Try One!

二、Mr. スイートポテト ぼくはさつまいも

南の国 から やってきた

食べものの 王様

チョコもアイスも ライバルだけど

ゴディバに負けない ゴジラだぞ

ベニアカ(いもせんべい)

ベニはるか(いもビール)

シルクスウィート(いもアイスクリーム)

みんな兄弟

Mr. スイートポテト いまは「スイーツ
ポテト」

ふうふう言って 食べてね

With huffing and Puffing

Please try one! Try One!

11. 虹の玻璃(ちきゅう)

作詞寺島悦恩・作曲小林範子

一、時は止まった 人影も凍る街 嘆きの星

The earth can be beautiful again

吹きすさぶ風に 舞い散る灰色の雪

ともしびの森

The earth can be beautiful again

かるやかに鳥が

笑いかける花

輝ける森が

語りかける朝

二、オリオン遙かに よみがえれ夢の星

虹の玻璃(ちきゅう)

The earth can be beautiful again

青い空と 水と風のふるさと 天の箱舟

The earth can be beautiful again

かるやかに鳥が

笑いかける花

輝ける森が

語りかける朝

12. うさぎ わらべ唄

うさぎ うさぎ

なみにてはねる

じゅうごやおつきさま みてはねる
うさぎ うさぎ
なにみてはねる
じゅうごやおつきさま みてはねる

13. 里の秋 作詞齋藤信夫・作曲海沼実

- 一、静かな静かな 里の秋
お背戸に木の実の 落ちる夜は
ああ 母さんとただ二人
栗の実 煮てます いろいろばた
- 二、明るい明るい 星の空
鳴き鳴き夜鴨（よがも）の 渡る夜は
ああ 父さんのあの笑顔
栗の実 食べては 思い出す
- 三、さよならさよなら 椰子（やし）の島
お舟にゆられて 帰られる
ああ 父さんよ御無事（ごぶじ）でと
今夜も 母さんと 祈ります

14. まっかな秋 作詞薩摩忠・作曲小林秀雄

- 一、まっかだな まっかだな
ツタの葉っぱが まっかだな
もみじの 葉っぱも まっかだな
沈む 夕日に てらされて
まっかなほっぺたの 君と僕
まっかな秋に かこまれている
- 二、まっかだな まっかだな
カラス瓜って まっかだな
とんぼのせなかも まっかだな
夕焼雲（ゆうやけぐも）を ゆびさして
まっかなほっぺたの 君と僕
まっかな秋に よびかけている
- 三、まっかだな まっかだな
ヒガン花って まっかだな
遠くの たき火も まっかだな
お宮の 鳥居を くぐりぬけ
まっかなほっぺたの 君と僕
まっかな秋を たずねてまわる

15. 夕焼け小焼け 作詞中村雨紅・作曲草川信

- 一、ゆうやけこやけで ひがくれて

やまのおてらの かねがなる
おててつないで みなかえろ
からすといっしょに かえりましょう

- 二、こどもがかえった あとからは
まるいおおきな おつきさま
ことりがゆめを みるころは
そらにはきらきら きんのほし

16. 七つの子 作詞野口雨情・作曲本居 長世

からす なぜなくの
からすは やまに
かわいい ななつの
こがあるからよ

かわい かわいと
からすはなくの
かわい かわいと
なくんだよ

やまの ふるすへ
いってみてごらん
まるいめをした
いいこだよ

17. 赤とんぼ 作詞三木露風・作曲山田耕筈

夕焼小焼の 赤とんぼ
負われて見たのは いつの日か
山の畑の 桑（くわ）の実を
小籠（こかご）に摘んだは まぼろしか

十五で姐（ねえ）やは 嫁に行き
お里のたよりも 絶えはてた

夕焼小焼の 赤とんぼ
とまっているよ 竿（さお）の先

18. 故郷 作詞高野辰之・作曲岡野貞一

- 一、兎追いしかの山 小鮎釣りしかの川
夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷
- 二、如何にいます父母 恙なしや友がき
雨に風につけても 思いいずる故郷
- 三、こころざしをはたして
いつの日にか帰らん
山はあおき故郷 水は清き故郷

